

# とよた消防 50 年のあゆみ



豊田市消防本部

豊田市消防本部

とよた消防五十年のあゆみ



50th history of Toyota fire service

とよた消防  
**50**  
年のあゆみ

豊田市消防本部

# 第1章

## 豊田市消防本部50年のあゆみ

---

# 明治時代▶1946(昭和21)



昭和初期 消防・正副小頭記念写真(井上農場)

猿投村でも他町村と同じく国の消防制度が大正11年5月に定められ、各部に小頭・副小頭が置かれていました。この写真は、戦時体制当時、警察の補助機関として国土防衛や治安維持のために活躍し、消防団の礎を築いた当時の消防・正副小頭記念写真です。

意気すこぶる有志の  
集合団体が地域を守る…

消防規則の公布と郷村私設消防組の創設



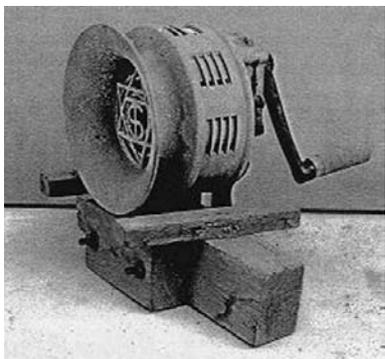
腕用ポンプ  
明治44年から昭和初期まで、当時西加茂郡猿投村大字四郷字上原で使用されていたものです。放水量223L/分、圧力2.4kg/m<sup>2</sup>



明治時代 消防用頭巾…布製で、大きさは、縦35cm、横32.4cm(頭の部分)です。梅組のものと思われます。



明治時代 龍吐水…木製で上部の取手を上下させて筒先から水を吐き出させるものです。高さは、116.7cm。



大正時代 消防サイレン…野口区で使用されていた手動式の消防サイレンで、安定するように木の台に取り付けられています。



明治時代 私設消防「梅組」の法被…木綿製、着丈74.4cm、肩幅64.5cm、袖丈32.3cm。

## ■明治時代

明治3年12月に拳母藩が「近傍失火規則」を制定・公布。明治5年の「額田県出火規則」の布達により、若頭を主力とした消防組が結成されました。

明治7年に「愛知県消防規程」が定められ、消防組の拡充が図られました。明治11年4月に、中金村で「消防組村規則」、明治14年9月には、篠原村でも「私立消防仮規則」が定められ、消防義務年齢や出火時の心得・合図・消防器具の管理などを取り決めていました。

明治29年7月、拳母町は、梅坪・宮口・逢妻・根川との合併を契機に郡内でも最初の公設消防(義務消防)である「拳母消防組」を誕生させました。

当時の拳母消防組は、第1部の下拳母、第2部の樹木の2部に分かれていました。

明治30年5月には小坂で私設消防旭組を母体とした第3部が結成され、梅坪では私設消防梅組を主軸とした第4部が編成されました。

明治34年10月には、第5部が長興寺に設けられました。

拳母消防組に次いで公設消防として設置されたのは、上郷地区の鴛鴦でした。

明治35年1月に寿恵野村大字鴛鴦の私設消防「をし組」を母体として、公設消防組の設置が許可されました。

明治39年に5か村が合併して上郷村が誕生したことにより、上郷消防組と改称し、碧海郡内でも有数の消防組として数々の業績を残しました。

## ■大正時代

大正時代に入ると、他の地域でも各町村単位に公設消防組を設け、火の見櫓や防火水槽を設置するなど、施設や装備を強化していきました。

## ■昭和時代

昭和に入ると、御立では、防火婦人会(4名)が全文10条からなる規約をつくり防火に取り組み始めました。この防火婦人会設立の目的は、村内の火災防止であり、具体的な活動は、毎夜食後に火気のある場所を検査し、検査簿に認印を押すことでした。

昭和14年に今まで活躍していた消防組は改組され、警防団になりましたが、消防の機械化が進んだのは戦後になってからで、まだこの時代は、腕用ポンプを使用していました。

## エピソード

### ～大正10年頃の各地の消防組の活動～ 「消防夜巡廻名簿」

当時の消防の活動は、主に村内の夜間巡回を時期を限って行い、火災の発生に備えるものでした。

当時の服装は正服を着用し、巡回時間は午後9時から午前6時まで、その間に3回を目安として4人1組で回ったとされています。

巡回期間は、1月24日から2月7日まででした。

# EPISODE

1947 (昭和22) ▶ 1955 (昭和30)



12

昭和30年ごろの豊田市駅前の様子  
消防本部の発足前は、消防団により「まちの安全」が守られていました。

消防組織法の公布により、警防団から消防団へ  
消防団設置条例により強力な消防団の誕生



昭和24年10月、西加茂郡消防連合演習での消防団長等による視閲の様子です。参加消防団は、拳母町、猿投村、高橋村、小原村、藤岡村、三好村、石野村、保見村消防団の計8団です。

### この時代の出来事

- 昭和23年……福井地震
- 昭和24年……水防法制定・法隆寺金堂火災
- 昭和25年……金閣寺火災
- 昭和28年……十勝沖地震

# HISTORY



昭和22年12月9日、「消防組織法」が衆議院を経て参議院で満場一致で可決され、同月23日に法律第226号として公布されました。そして、翌23年3月7日の同法の施行によって、明治以来75年間にわたって警察機構のなかに包含されていた消防が警察から完全分離独立するとともに、市町村がその責任において管理する自治体消防制度としてスタートすることとなりました。

豊田市(旧拳母町)では、従来の官治消防から完全な自治体消防へと移行するために諸規定の制定、改廃を行い、消防団設置 条例に基づく強力な消防団を結成しました。



昭和28年9月、西加茂郡消防連合演習観閲式の様子。参加消防団は、猿投村、高橋村、小原村、藤岡村、三好村、石野村、保見村消防団。

# 1956(昭和31) ▶ 1963(昭和38)



昭和31年 出動風景

拳母市消防本部(現「児ノ口公園」)から出動する様子です。

## 自治体消防発足から9年 豊田市(当時拳母市)消防本部の歴史が始まる



### 初代通信指令装置

当時は、有線による交信でした。後に、番号無で「火事」といえばつながる「火災専用電話」と「99番」、「899番」の3本の電話での対応となりました。

自治体消防発足から遅れること9年。市民の声も後押しして、昭和31年についに、消防本部、消防署が豊田市(当時拳母市)に誕生しました。豊田市では、消防団幹部から一般市民に至るまで、消防署の発足を求める声に熱望されてのもので、昭和31年から消防職員を採用するとともに、同年5月6日から愛知県消防訓練所に初任科講習生として派遣し、同年7月6日の卒業と同時に24名体制により消防本部・署として事実上の発足を見るに至りました。当時の業務は火災予防が重要な使命であり、火を消すことは当然の任務と解釈されていました。

昭和34年1月1日に、拳母市から豊田市へ市名変更したことに伴い、消防本部の名称も現在の豊田市消防本部へと変わりました。

昭和34年度に従来の手引動力ポンプを可搬式動力ポンプに改める「消防団機械力の小型化整備5ヶ年計画」を策定し、市内の消防団に全額市費にて20台の可搬式動力ポンプを配備しました。この配備にみられるように消防団のあり方が問われた時代でした。



### 昭和37年 消防本部前での安全祈願記念写真

消防本部は、発足時から無火災、職員の無事故を祈念して、正月に記念撮影をしていました。「来年も全員で記念撮影ができますように」と願い撮影に臨んだそうです。

### この時代の出来事

- 1956(昭31)…「もはや戦後ではない」の語流行
- 1957(昭32)…岸信介内閣成立
- 1958(昭33)…東京タワー完工式
- 1960(昭35)…第1回防災の日、NHK等でカラーテレビ放映開始  
火災原因トップ「こんろ」から「たばこ」へ
- 1961(昭36)…長岡地震、消防力の基準制定
- 1963(昭38)…ケネディ米大統領暗殺される  
救急業務を行わなければならない市町

# HISTORY



昭和34年 伊勢湾台風の被害を受けた挙母神社

災害は、忘れたころにやってくる  
甚大な被害をもたらした災害は、  
数々の教訓を与えてくれた

# 1956(昭和31) ▶ 1963(昭和38)



## ■昭和37年11月19日 勘八町航空機火災

墜落事故により出火。当時、高橋中学校に通っていた現消防職員は、「理科室から煙が見えた時には、何が起こったのかわからなかったが、帰宅後知って驚いた」と当時を振り返りながら、「あのような惨事が二度と起こらないことを常に祈り続けている」とその当時の凄まじさを語ってくれました。



現在の拳母神社

# 施設の充実に重点を置き、 消防署・消防団一体となって消防・防火に 万全の体制を整えている



18

## 昭和35年ころ 手作り火災予防啓発看板

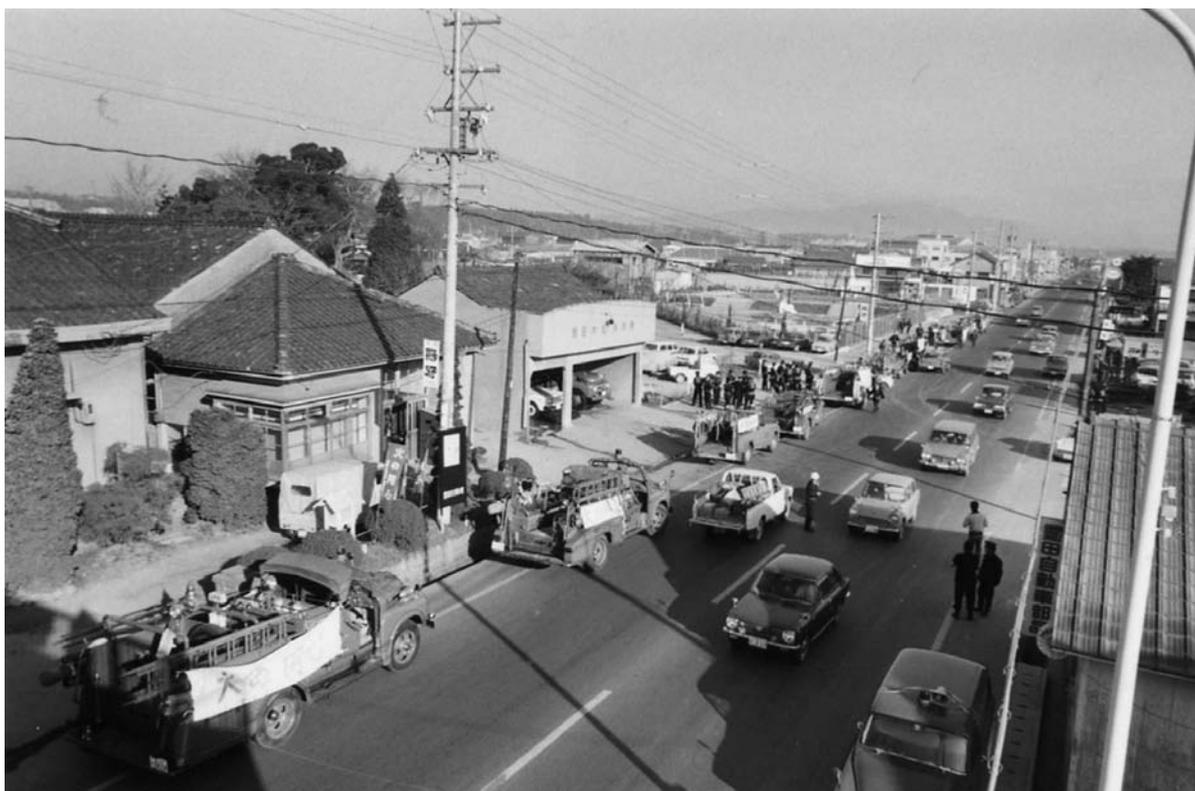
「春の火災予防運動」に使用した防火看板です。色塗りなどそれぞれの分担を決めて屋外で作成した看板を、豊田市駅前などに掲げて火災予防の普及啓発を行っていました。

このころの防火普及啓発活動は、火災予防の時期に合わせて職員の手作りによる防火看板を駅前や街角に飾っていました。また、昭和35年4月5日には、統一した消火栓表示板を市内全箇所に取り付けました。危険物施設の安全管理、取扱い技術の向上と防火思想の普及を目標とした豊田市危険物安全協会が407事業所の参加により、昭和34年に発足しました。



## 昭和38年9月1日 救急業務開始

運転席に機関員（運転手）、助手席に隊長、後部座席に隊員と救護者が乗っていました。当時は、「ピーポー」という電子サイレンではなく、「ウーウー」というモーターサイレンを鳴らして搬送していました。



昭和32年 初代消防庁舎 初代庁舎前に待機している消防自動車と消防関係者です。庁舎の前の道路は国道153号線で、庁舎の場所は、現在の「児ノ口公園」です。



昭和32年4月 放水訓練をする婦人消防隊  
今町婦人消防隊が、可搬ポンプによる消火訓練を実施しています。



昭和35年ころ 火災予防運動週間中の普及啓発  
豊田市駅前の「トヨビル」に掲げられた「秋の火災予防運動週間」の懸垂幕です。





#### 昭和42年 レンジャー訓練

消防署が発足して10年余が経ち、社会の発展に伴って多種多様化してきた事故に対応するため、10数名の職員が自衛隊による訓練を受けました。写真上が豊田市駅前文化会館(手前)から東海銀行屋上にロープで渡る隊員の写真、左が児ノ口公園内の神社の木を使ってロープ訓練をする隊員の写真です。

昭和39年に碧海郡上郷町、昭和40年に碧海郡高岡町、昭和42年に西加茂郡猿投町、昭和45年に東加茂郡松平町と合併しました。そのころ、上郷地区と高岡地区に出張所建設の機運が高まり、南部出張所を建設。その後、美山出張所(美山町)、四郷出張所(四郷町)、大林出張所(大林町)を建設し、災害の防除に最大の努力を傾注していました。このころは、合併による市域発展と警備範囲の拡大により、消防職員、消防団、施設等の消防力が急激に拡大した時代でした。

#### この時代の出来事

- 1964 (昭和39) …東京オリンピック開催
- 1965 (昭和40) …消防訓練礼式の基準制定
- 1966 (昭和41) …ビートルズ東京公演
- 1967 (昭和42) …住民基本台帳法公布
- 1968 (昭和43) …自治体消防制度20周年記念式典  
第1回全国消防操法大会の開催  
トヨタ自動車(株)年産120万台突破
- 1969 (昭和44) …東名高速道路全面開通  
川崎市消防局に全国初の女性消防官誕生



#### 昭和40年1月 消防出初式

来賓祝辞の後、ラッパ隊を先頭に消防各機動車両、各団員が市中をパレードしました。



昭和46年11月28日 避難訓練

拳母町の庁舎敷地内で市民を前に15メートル級屈折はしご付消防ポンプ自動車(昭和45年2月購入)の上部から緩降機を使った避難訓練を披露しています。



昭和44年5月 美山出張所開設  
市西部地域の拠点として、美山町に消防司令補以下13名と消防ポンプ自動車(写真左)、救急車(写真右)各1台を配備しました。



昭和43年 火の元検査表  
火災を未然に防ぐため、火の元を確認する表を各家庭に配布していました。この1枚が1年間分で、そのほかに消防に関する情報が記載されています。



昭和43年1月26日 文化財防火訓練  
昭和41年から文化財防火訓練が始まりました。写真は猿投神社で行われた文化財防火デーに伴う訓練の後、責任者から講評を受けている隊員の様子です。毎年行われている文化財防火訓練も平成18年で41回を迎えます。



昭和46年11月25日 署消防操法競練会  
技術の向上を目的に、昭和44年から始まりました。写真は、第3回競練会(市体育館北側の安永川沿)において、ホースを延長する様子です。

■栄町崇化館中学校全焼

昭和48年9月29日3時50分、栄町地内の市立崇化館中学校における建物火災の出動指令により、本署から普通車の分隊長として出動する。出動途上、久保町市営駐車場付近にて崇化館中学校方向に火煙を発見、直ちに火災確認を本署へ連絡する。先着隊として現場に到着したときには2階建て木造校舎とすぐ東側の木造平屋建校舎が猛煙に包まれ炎上中で、南側木造校舎へも延焼していた。同時出動した15号車(タンク車)との無線連絡により、単独で戦うよう交信し、職員室前の貯水槽に水利部署した上で同時2線延長を行い、第1線は2階建校舎の延焼防止、第2線は南側校舎の消火及び延焼防止を指示したが、火災は中期から後期の状態で大規模な様相を呈してきたため、直ちに2次出動の依頼をする。午前3時55分、2次出動隊が 職員室前の貯水槽に部署し、1線ホース7本を延長して校舎の東側から延焼防止と、内部注水を交互に行った。この結果、火勢は鎮圧状態となり他への延焼を食い止めることができた。(職員の回想から)



#### 47.7災害

集中豪雨により豊田市をはじめ、西加茂郡徳岡町、同小原村、岐阜県東濃地方で数十名が行方不明となりました。そのほとんどが矢作川に流された可能性が高いということで、豊田市消防本部と豊田市消防団は、7月15日から約1ヶ月間、越戸ダムから明治用水水源ダムまでの約12Kmの範囲を連日捜索しました。上の写真は被害にあった錦町、下の写真は現在の十塚町4丁目交差点付近です。

## 初の女性消防士を採用 47.7災害の教訓を活かす

昭和48年には豊田市火災予防条例が制定されて、翌昭和49年には女性消防士による予防活動が実施されるなど、災害弱者に対する予防活動が活発になっていきました。

また、昭和46年に、社会公共の安全や福祉の増進を目的として防火協力が発足しました。県下でも有数の保有量を誇る防災映画による防火思想の普及が、このころの子防活動の主流でした。



昭和46年 アクアラング訓練

昭和40年5月から採用し始めたアクアラングですが、昆虫公園にてシュノーケルでの呼吸法訓練、アクアラングの使用説明、基本飛び込み訓練を実施しました。「もう少し訓練すればできますよ。」と参加した潜水隊員が自信を語っていました。



昭和49年 初の女性消防士採用

ひとり暮らしの高齢者宅を訪問し、消火器の取扱いなどを説明する本市初の女性消防士です。



昭和46年 初の救助工作車を配備



昭和47年9月 30m級梯子付消防自動車を配備



昭和46年7月 消防救助訓練大会

愛知県下の消防職員が技術を競い合う大会です。写真は、ロープを使って斜めに登る訓練で、向かって一番左の隊員が、豊田市代表の職員です。現在では、救助技術大会と名称を変更して行われています。

### この時代の出来事

- 1970(昭和45)…救急車のサイレンを電子サイレン(ピーポー音)に変更
- 1971(昭和46)…沖縄返還協定調印
- 1972(昭和47)…千日デパートビル火災(大阪市)  
グアム島で元日本兵横井庄一氏救出
- 1973(昭和48)…大洋デパート火災(熊本市)
- 1974(昭和49)…佐藤栄作氏ノーベル平和賞受賞
- 1975(昭和50)…新幹線岡山-博多間開業  
(東京-博多間全通)

HISTORY

# 1976(昭和51) ▶ 1988(昭和63)

## 防火思想普及は、市民とのかかわり ソフトなイメージの豊田市消防音楽隊が誕生



### 昭和51年6月 消防音楽隊発足

週1回専門の講師に音楽の指導をお願いし、約1年間の基礎勉強をした後、行事初参加への運びとなりました。写真は、行事参加前の練習風景です。

### 昭和55年 高橋分署(現在の東分署)開設

「防火のつどい」発祥の地です。この年に救急業務を整備し、救護隊から救急隊へと名称を変更しました。

あらゆる年代を対象とした防火活動を展開していった時代です。荒々しいイメージを持つ消防から一変して、ソフトなイメージを持つ消防音楽隊を発足させ、さまざまな行事に参加することにより積極的に防火思想を普及していきました。

昭和55年には婦人消防クラブが結成され、地域住民の協力のもと、火災予防を実施しました。また、火災予防思想を身に付け、火遊び等による火災の防止を図ることを目的に昭和56年10月に幼年消防クラブ(当時724名)が結成されました。

通信指令室として通信棟を設置するとともに、地図検索装置及びミニファクス等を整備し、緊急体制の確立を図りました。





**昭和59年 防火のつどい**

昭和55年高橋分署（現在の東分署）で消防と市民が触れ合うイベント「防火のつどい」が始まりました。平成15年から「YOU・遊；消防フェスタ」と名称を変更し、平成18年度で26回目を迎えました。（昭和63年以外は、毎年実施）



**昭和52年ごろ 文化の日パレード**

消防音楽隊の発足を機に女性消防職員（4名）がボンボンを持ち、パレードに参加しました。写真は、豊田信用金庫前です。



# 関係団体が続々誕生 目指すは、「災害に強い地域づくり」



## 昭和55年 婦人消防クラブ連絡協議会発足

地域防火の推進を担う婦人消防クラブ連絡協議会が誕生しました。写真は市民防災訓練（市役所駐車場）でバケツリレーをしている様子です。当時担当していた職員は、「市民防災訓練に参加できたことはとても画期的で、市民と共に防災に関する意識を共有できた喜びを昨日のこのように思い出します」と語っています。



## 少年消防クラブ員による放水訓練

昭和26年から少年少女を介して各家庭、学校内及び校区内の火災の減少を図ることを目的に少年消防クラブは活動しています。写真は、拳母町庁舎内で、放水体験をするクラブ員たちです。



## 昭和52年 救急ひろば

9月9日「救急の日」に、人工呼吸の大切さなどを市民へ呼びかけるため、トヨタ生協で「救急ひろば」と銘打ち市民への普及活動を実施しました。

# 1976(昭和51) ▶ 1988(昭和63)



昭和54年 消防出初式  
本署に特別消防隊を新設し、セーラー渡りを披露しました。



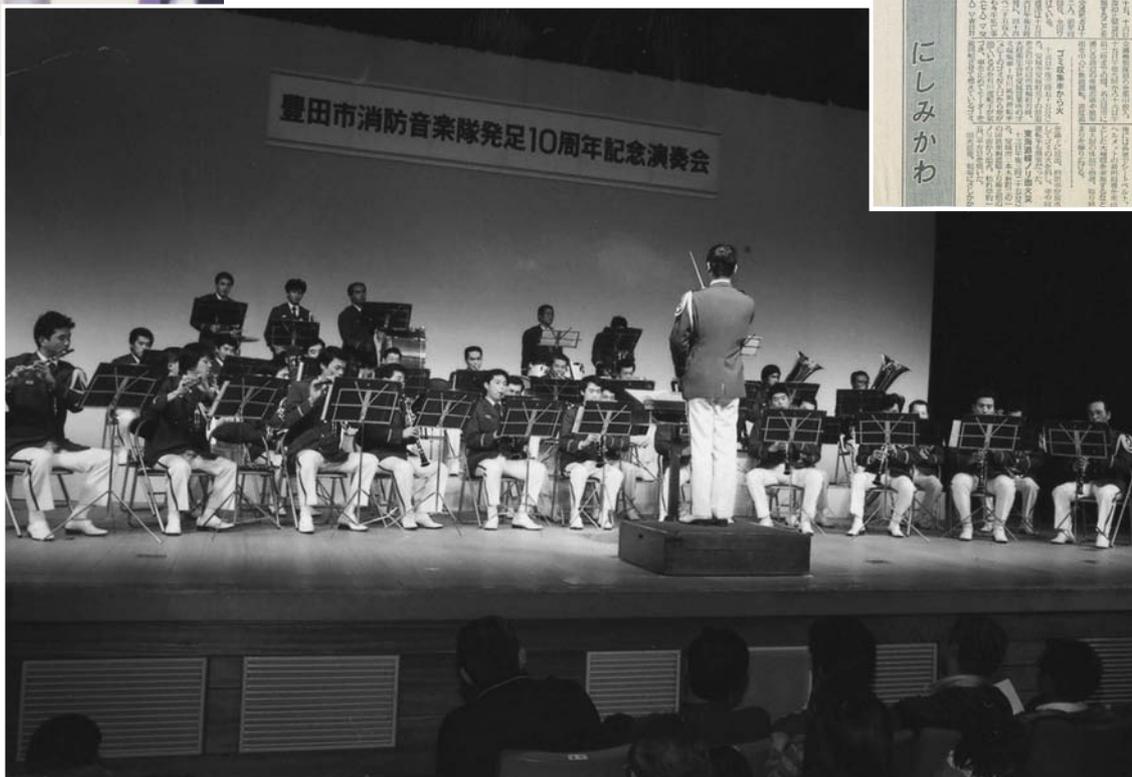
昭和56年10月1日 幼年消防クラブ発足  
幼年期から火遊び等による火災の防止を意識づけるとともに消防の仕事を理解してもらうことを目的として発足しました。写真は、説明を聞く幼稚園児たちです。





昭和57年 通信指令室

拳母庁舎に新しい通信機器を整備した通信棟を新築しました。昭和58年7月にはミニファクス(写真左)、昭和60年12月には、地図検索装置を導入し、緊急体制の整備を図りました。写真下は、当時の新聞です。



昭和61年11月 消防音楽隊発足10周年記念演奏会

11月29日、豊田市民文化会館で多くの市民を集めて盛大に開催しました。各方面から賛辞をいただくとともに、豊田市長からも感謝状が贈られました。

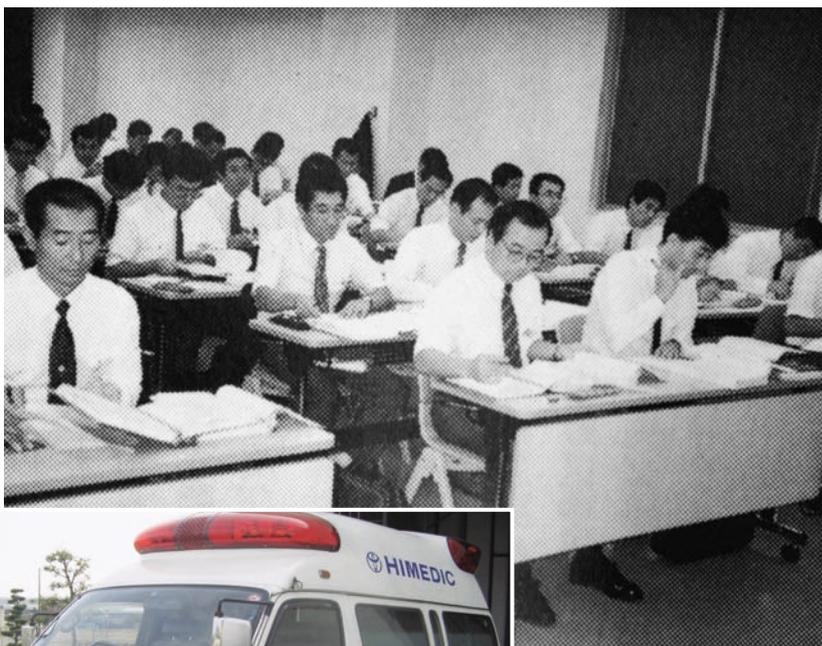
# 1989(平成元) ▶ 1997(平成9)

## 救急救命士誕生

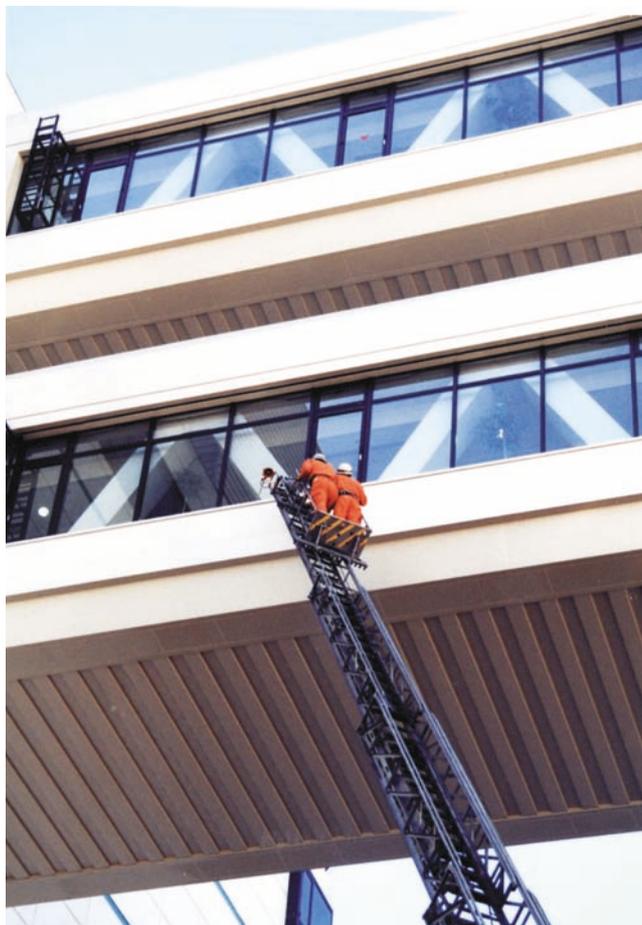
平成3年に救急救命士法が制定され、翌年には第1回救急救命士国家試験が行われました。

豊田市においても救急救命士第1号が誕生し、救命士が行う電気ショック(除細動)などの救命処置に必要な資器材を搭載した「高規格救急車」が本署(現在の中消防署)と南分署(現在の南消防署)に配備され、救急救命士による救急業務が開始されました。

平成6年には、豊田加茂医師会、市内主要病院、消防署からそれぞれ代表の委員を集め、豊田市救急業務連絡協議会を発足させました。救急業務について医療機関と消防の間で相互の意見を積極的に交換し、協力体制下で救急業務の高度化を目指しました。このような協議会は他市には見られない組織であり、メディカルコントロール体制の構築以前から、医療機関との密接な連携と信頼関係を築くために活動していました。



救急救命士と高規格救急車  
第1回救急救命士国家試験に向けて開設された救急救命中央研修所(東京都)で研修に励む職員(写真上)と救急救命士の特定行為用の救急資器材(心電図モニターや自動心臓マッサージ器)が搭載された日本初の国産量産型高規格救急車。(写真下)



平成4年4月 50m級梯子車を配備

中心市街地の高層化に伴い、50m級梯子車(写真上)を配備しました。左の写真は、市街地で行われた梯子車を活用した救出訓練です。



南分署では昭和62年の開署以来、近隣の幼稚園・保育園児を招待し、職員手製による「輪投げ」「スマートボール」等の遊具も用意して「消防ひろば」を行っていましたが、平成2年には、着ぐるみの人形劇「ファイヤーマンショー」が製作されました。園児たちに大好評を博したファイヤーマンショーは、その後も衣装やストーリーに手を加えながら今に受け継がれています。



#### 平成2年 ファイヤーマンショー

昭和62年の南分署開署以来、職員手製の遊具(写真左)などで楽しめる「消防ひろば」を行ってきました。平成2年には、着ぐるみの人形劇「ファイヤーマンショー」(写真上)が初めて披露されました。



#### 住宅防火診断実施件数

平成4年	418件
平成5年	10,174件
平成6年	10,561件
平成7年	11,114件
平成8年	10,321件
平成9年	11,717件
平成10年	11,875件
平成11年	11,763件
平成12年	16,263件
平成13年	11,104件
平成14年	11,993件
平成15年	4,654件
合計	121,957件

#### この時代の出来事

1989(平成元)

消費税導入(4/1)

1990(平成2)

東西ドイツ統一(10/3)

日本人初の宇宙飛行士:秋山豊寛さん宇宙へ(12/2)

1991(平成3)

湾岸戦争勃発(1/17)

信楽高原鉄道列車事故により死者42人、負傷者478人(5/14)

雲仙普賢岳火砕流により死者・行方不明38人(5/23)

台風19号により死者45人(9/27)

ソビエト連邦崩壊(12/21)

## HISTORY

火災のうちの大半を占める住宅火災の減少を目指して、豊田市内の一般世帯約12万世帯を対象に、住宅防火診断を実施しました。この診断は、郵送や訪問により調査した各家庭の火気取扱状況や消防設備の設置状況をコンピュータ処理し、防火安全性の数値を算出するもので、診断結果を各家庭に送付し、防火意識の高揚を図りました。

# 消防本部・消防署を新庁舎に移転 防災学習センターを開設



平成6年10月 3代目庁舎竣工 挙母町から長興寺に消防本部・署を移転

平成6年10月、前庁舎と比較して敷地面積で約5倍、延べ床面積で約3.5倍に広がり、屋内訓練場や8階建の訓練塔などの設備を充実した新庁舎が完成しました。

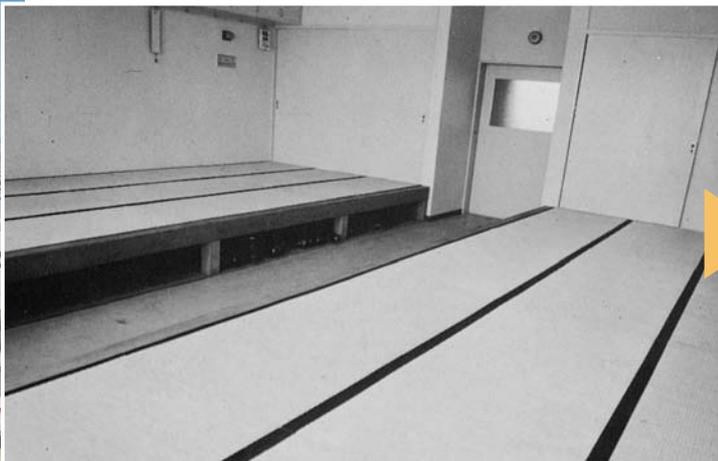
新庁舎の移転新築に伴い、消防緊急情報システムが他の消防本部に先駆けて導入されました。従来の通信指令装置は、災害地点の特定、出動隊の指定、出動指令等は通信員が通報を受信後、通報内容を聞き取りながら古典的な方法で操作しなければなりませんでした。消防緊急情報システムの導入により、固定電話からの通報であれば自動的に発信地を特定、簡単な操作のみで出動隊が指定され、自動音声による出動指令が可能となりました。さらに、各消防車両にナビゲーションを搭載し、画面上に災害点や消防水利、支援情報等を表示することにより、消防活動の効率性を飛躍的に向上させました。その後システムは、平成11年と平成16年に更新され、性能が向上するとともに、より一層の合理化が図られています。

また同時に、防災学習センターが新庁舎にオープンしました。体験型の防災学習施設として一般に開放され、平成18年にリニューアルオープンするまでの期間に28万人以上の来館者を集めて市民の防災意識の普及啓発及び高揚を図りました。



**平成6年 防災学習センター**

消火シミュレーターや地震体験、煙道脱出などの体験型学習施設と視聴覚室を併設しました。東海3県内でもトップレベルの防災学習施設としてオープンしました。

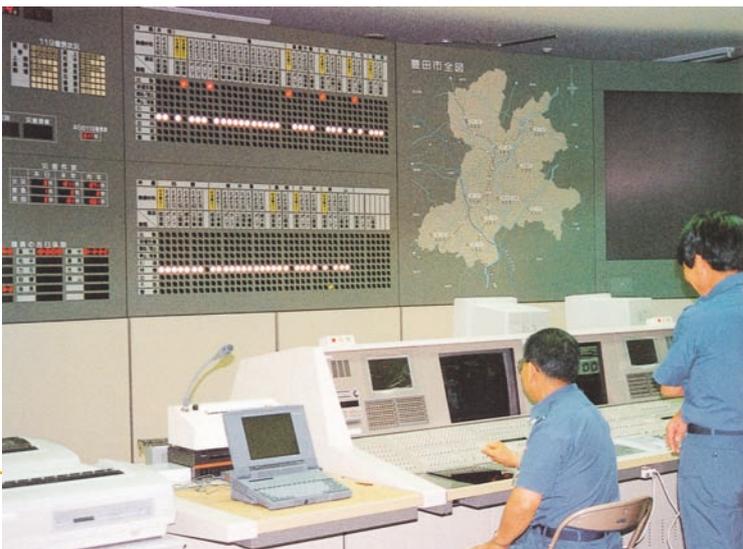


**平成6年～ 仮眠室個室化**

平成6年から順次個室化を進め、平成15年3月には全施設の仮眠室が個室となりました。写真左は、当時の仮眠室（挙母庁舎）の様子で、待機する職員が枕を並べて仮眠していました。

**平成6年 消防緊急情報システム**

コンピュータ制御による最新の通信指令システムを導入しました。



**この時代の出来事**

1992 (平成4) …PKO協立法案成立 (6/15)

1993 (平成5) …Jリーグ開幕 (5/15)

北海道南西沖地震発生、奥尻島を中心に津波による大きな被害が出る。死者・行方不明230人、負傷者323人、家屋の全半壊1,009棟 (7/12)

1994 (平成6) …名古屋空港で中華航空機が墜落炎上。乗員・乗客のうち264人が死亡 (4/26)

松本サリン事件発生、死者7人 (4/26)

**HISTORY**

# 阪神淡路大震災の教訓から進化する消防



平成17年 阪神淡路大震災 豊田市消防本部から派遣された救助隊による活動の様子



平成7年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.2の直下型地震が発生しました。死者6,434人、行方不明者3人、負傷者43,792人、全半壊249,180棟、総損害額は10兆円規模と試算され、国内では関東大震災以来の大惨事となりました。豊田市消防本部からも地震発生翌日から5日間計11人(1次6人、2次5人)の救助隊1隊を派遣し、同年3月には6日間6人(1次2次各3人)の消防隊1隊を派遣しました。

この阪神淡路大震災は、壊滅状態となった被災地を管轄する現地の常備消防力だけでは複数箇所と同時に頻発した火災・救助・救急に対応することが到底不可能であったことから、同7年6月30日には即座に応援隊が派遣できるように緊急消防援助隊の制度が創設されました。このとき豊田市は救助隊1隊を登録しました。

# 1989 (平成元) ▶ 1997 (平成9)



## 平成9年 ヘリポート整備

愛知県防災航空隊との応援協定を受け、消防本部の敷地内にヘリポートを整備しました。



## 平成9年 救助工作車Ⅲ型

地震災害発生時の救助に対応できるよう、画像探索機や地中音響探知機などの高度救助資器材を搭載し、新規格に対応した救助工作車を導入しました。



## 平成8年4月 藤岡小原分署開設

平成6年の法改正により常備消防の設置が義務化された藤岡町と小原村から消防事務を委託され、藤岡小原分署を開設しました。

## この時代の出来事

1995 (平成7)

阪神淡路大震災が発生 (1/17)

地下鉄サリン事件。死者12人、負傷者約5,500人 (3/20)

野茂英雄メジャーリーグで新人王

1996 (平成8)

病原性大腸菌O-157により1万人以上が食中毒

1997 (平成9)

神戸児童連続殺傷事件 (2/10)

消費税3%から5%に増税 (4/1)

地球温暖化防止会議。京都議定書採択 (12/1)

# HISTORY

# 1998(平成10) ▶ 2006(平成18)

## 襲いかかる自然の猛威に水害の意識高まる

平成12年9月11日から12日にかけて、停滞した秋雨前線に台風14号が影響し、東海地方を中心に記録的な集中豪雨(東海豪雨)が発生しました。豊田市でも総雨量493.5ミリを記録し、豊田消防全職員を召集して警戒に当たりましたが、豊田市内で死者1人、床上浸水212棟、床下浸水347棟、総損害額約21億円にも上る、多大な被害をもたらしました。



### 東海豪雨で増水した矢作川

矢作川の水位が上昇し、堤防決壊のおそれから市北部や中心部の9,200世帯24,000人に避難勧告が出されました。



### 激流による富国橋の流出

矢作川に架かり、富田町と国附町を結ぶ富国橋の橋梁の一部が増水により流出しました。激流により流出した富国橋の無残な姿が、東海豪雨の激しさを物語っています。



### 水害への対応力強化

昭和47年に発生した「47豪雨」以来の水害となった東海豪雨を契機に、水害への対応力の強化が再考されました。平成13年から救助用のアルミボート(写真上)を各署所に順次配備し、平成15年には水害発生時の拠点として「矢作川豊田防災ステーション」(写真下)を完成させました。



### この時代の出来事

1998(平成10)

サッカーW杯フランス大会に日本初出場(6/10)  
和歌山カレー毒物混入事件(7/25)

1999(平成11)

トルコ西部で死者1万人の大地震(8/17)  
茨城県東海村の民間ウラン加工施設で臨界事故。  
49人が被ばくし1人死亡(9/30)

台湾で死者2千人の大地震(9/21)

2000(平成12)

営団地下鉄日比谷線脱線事故。死者5人、重軽傷60人(3/8)  
有珠山噴火(3/31)

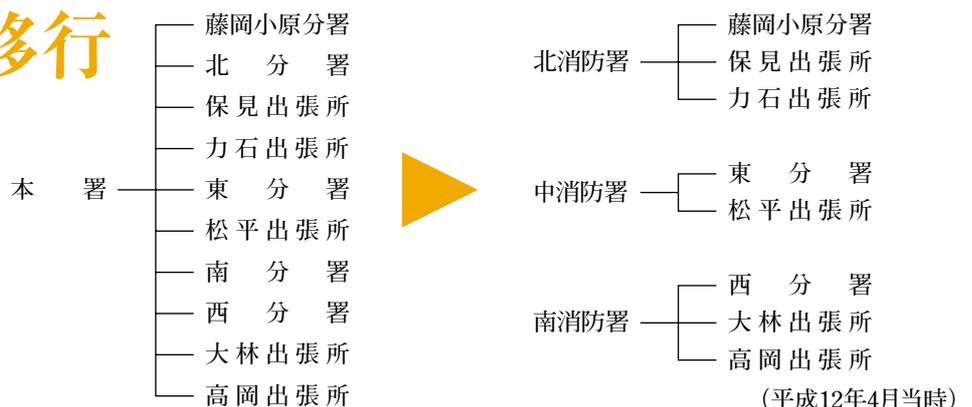
三宅島噴火。全島避難(8/18)

東海豪雨(9/11)

# HISTORY

## 3署体制への移行

平成12年、大規模災害時の消防対応や火災の早期鎮圧・救急需要に即した消防力の適正配置を図るため、消防署を1署体制から3署体制に移行しました。



# 行政と市民との共働による 「安心安全なまちづくり」を推進

平成13年のトヨタ自動車(株)との応援協定締結を踏まえ、大規模災害発生時には行政と民間の垣根を越えた円滑な協力体制が発揮できるよう、定期的に合同訓練を実施しています。

平成14年には豊田市が東海地震防災対策強化地域に指定されたことから、関係機関と協定を結ぶなど、あらゆる手段を講じてライフラインの確保に努めています。また、同年には、自主防災訓練等の防災啓発活動推進するため、地震を疑似体験できる起震車「防サイ君」を導入しました。この他にも逢妻出張所の新設、北消防署新庁舎の建設、平成18年の大林出張所移転に合わせた分署昇格など、4署体制下での消防力の拡充を図っています。

平成15年には女性消防団員によるカラーガード隊「ひまわりフェアリーズ」を結成し、翌年には豊田市消防音楽隊に市民演奏者を初採用するなど、市民と一緒に防火・防災の重要性を呼びかけるとともに、市民にさらなる安心感を与える消防を目指して、積極的な普及啓発に努めています。



平成15年4月 女性消防団員任命式

カラーガード隊として各種行事に参加するだけでなく、応急手当普及員として救命講習に参加するなど幅広い活躍をしています。



平成16年1月 女性消防団員によるカラーガード隊

女性消防団員として初めて参加した消防出初式では、華麗な演技で会場の観衆を魅了しました。



平成16年 市民が入隊した新生消防音楽隊

公募により一般市民が音楽隊に入隊し、市民との共働による消防音楽隊へと生まれ変わりました。

## 1998(平成10)▶2006(平成18)



### 平成10年 善心号寄贈

元消防団長の家族からミニ消防車「善心号」が寄贈されました。荷台に子どもの乗車スペースが設置され、幼稚園や保育園の避難訓練で人気を集めています。



### 平成14年 防災指導車「防サイ君」

関東大震災や阪神大震災の揺れの再現や震度7までの地震を体験することができます。キャラクターデザインと名前は市民の公募で決定しました。



### 平成16年3月5日 吉本新喜劇で活躍中のタレント「吉田ヒロ」さん 1日消防長

春の火災予防運動週間で「1日消防長」として任命されたタレントの「吉田ヒロ」さんが、豊田市駅前で梯子車救出訓練の指揮や消防設備の点検を行うなどの防火PRを行いました。

## この時代の出来事

2001(平成13)

- 米ハワイ沖実習船えひめ丸が米海軍原潜と衝突。9人死亡(2/9)
- 大阪池田小学校不審者乱入。児童8人死亡(6/8)
- 歌舞伎町雑居ビル火災。死者44人(9/1)
- 米同時多発テロ。死者・行方不明者3,000人以上(9/11)
- 米がアフガニスタンに空爆開始(10/7)
- 不審船沈没(12/22)

2002(平成14)

日本・韓国共同のサッカーW杯開催(5/31~6/30)

2003(平成15)

- 米がイラクに対し武力攻撃を開始(3/20)
- SARS(重症急性呼吸器症候群)が中国で蔓延

# HISTORY

# 7市町村合併、市域拡大へ

平成17年4月1日、豊田市は藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町及び稲武町と合併。面積は918.47k㎡となり、愛知県下で最も広い市域を持つこととなりました。合併に伴ってあすけ地域消防組合消防本部を編入し、4消防署体制に移行、署所の数は足助消防署、旭出張所、稲武出張所、下山出張所を追加した16署所になりました。

また、平成15年から平成17年にかけて高速道路網の整備が進み、伊勢湾岸自動車道、東海環状自動車道が相次いで開通しました。既存の東名高速道路と合わせてインターチェンジが6か所、サービスエリアとジャンクションがそれぞれ2か所になりました。さらに東海環状自動車道に本市と瀬戸市とを結ぶ愛知県下最長の猿投山トンネル(全長4.4km)を有するようになったため、対応策として北消防署には日本でも他に類を見ない特殊車両「排煙電源車」を、インターチェンジに最寄りの署所には高速道路支援用広報車を配備しました。

同年、長久手町、瀬戸市、豊田市で愛知万博が開催され、期間中会場内に設置された万博消防署に豊田市消防本部からも5人の職員を派遣し、万博の成功に貢献しました。



## 新システムになった通信指令室

管内において火災や救急等の災害が同時発生した場合でも、最大で12事案に対応できるシステムです。また、外国語にも対応しています。



## 平成18年4月 防災学習センターリニューアル

新たに風速30mまでの暴風体験ができる施設を加え、実災害発生時に対応できる技術が修得できるようになりました。



## 平成17年 排煙電源車を配備

トンネル火災に対して抜群の排煙効果を発揮します。大型送風機の風圧に乗せた噴霧放水や空気ポンプへの空気充填装置、強力な照明設備を搭載した次世代型の後方支援型車両です。

# 1998(平成10)▶2006(平成18)



## 平成18年4月 救急救命士処置拡大

さらなる救命率の向上を目指して、平成16年には気管挿管、平成18年には薬剤投与が可能な救急救命士が誕生しました。写真は、新たな技術を修得するために訓練をする救急救命士です。



## 福井県集中豪雨に緊急援助隊派遣

平成16年7月18日、福井県を襲った総降水量285ミリの集中豪雨災害に対し、愛知県緊急消防援助隊として豊田消防からも救助工作車1台、防災支援車1台、隊員6人が救助部隊として派遣されました。平成7年の創設以来、初めての緊急消防援助隊活動となり、被災地で検索救助活動などを2日間実施しました。



## 平成18年 AEDの設置

早期除細動の重要性から豊田市内の交流館や中学校を始めとする公共施設にAED(除細動器)を設置しました。



## 愛知万博(愛・地球博)開催

平成17年3月から9月にかけて愛知万博が長久手町、瀬戸市、豊田市で開催されましたが、万博消防署に職員5人を派遣するとともに、万博八草駅には救急車1台(隊員3人)を常駐させ、臨時救急八草出張所を開設しました。

## この時代の出来事

2004(平成16)

集中豪雨が相次ぐ。新潟・福島県(7/13)、福井県(7/18)  
新潟県中越地震発生。死者51人、負傷者4,794人、  
全半壊1万6千棟の被害(10/23)

鳥インフルエンザ

過去最多10個の台風が日本に上陸し、死者・行方不明者  
は、計214人、損害額約7千億円  
スマトラ沖地震発生。津波による大被害で死者15万人以上(12/26)

2005(平成17)

JR福知山線脱線事故。死者107人、負傷者549人(4/25)  
米南部が相次いでハリケーン被害を受ける(9月、10月)

2006(平成18)

各地で大雪による被害が発生。100人以上が亡くなる

# HISTORY

